

⑯日本国特許庁(JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報(U) 平4-46070

⑬Int.Cl.<sup>5</sup>

B 65 H 35/07

識別記号

庁内整理番号

E 9037-3F

⑭公開 平成4年(1992)4月20日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮考案の名称 塗膜転写具

⑯実 願 平2-88057

⑰出 願 平2(1990)8月22日

⑱考案者 小野 雅彦 大阪府大阪市西淀川区歌島4丁目8番43号 富士化学紙工業株式会社大阪工場内  
⑲考案者 若杉 浩一 東京都中央区新川2丁目4番7号 株式会社内田洋行本社内  
⑳考案者 稲葉 奈緒子 東京都中央区新川2丁目4番7号 株式会社内田洋行本社内  
㉑考案者 木村 勝彦 東京都中央区新川2丁目4番7号 株式会社内田洋行本社内  
㉒考案者 直井 勇三 東京都中央区新川2丁目4番7号 株式会社内田洋行本社内  
㉓考案者 岡本 安都夫 東京都中央区新川2丁目4番7号 株式会社内田洋行本社内  
㉔考案者 岡田 智雄 東京都中央区新川2丁目4番7号 株式会社内田洋行本社内  
㉕考案者 富永 克郎 東京都中央区新川2丁目4番7号 株式会社内田洋行本社内  
㉖出願人 富士化学紙工業株式会社 大阪府大阪市西淀川区歌島4丁目8番43号  
㉗出願人 株式会社内田洋行 東京都中央区新川2丁目4番7号  
㉘代理人 弁理士 北村 修

㉙実用新案登録請求の範囲

ハウジングHに所定の姿勢で着脱自在に収納されるカートリッジCに、転写テープTを巻き掛けたる繰出コア2と、この繰出コア2から繰出される転写テープTを巻き取る巻取コア3と、前記繰出コア2から巻取コア3へのテープ移動経路途中において、前記転写テープTの転写塗膜T<sub>2</sub>を被転写面aに転写する転写ヘッド6と、前記両コア2, 3に対する同一側面側からの軸の係合操作を許容する軸挿入口8, 7とが設けられているとともに、前記ハウジングHには、前記軸挿入口8, 7を通して前記両コア2, 3の夫々に係合する一対の駆動軸15, 13と、前記転写ヘッド6

を外部に臨ませる開口部10とが設けられてなる塗膜転写具であつて、前記ハウジングHは、前記開口部10に対して転写ヘッド6を挿抜する方向でのカートリッジCの出し入れを許容する装着口11を備えたハウジング本体9と、前記装着口11を開閉する開閉蓋12とからなり、前記開閉蓋12の内面には、前記駆動軸15, 13が取付けられ、更に、前記開閉蓋12から前記装着口11を通してハウジング本体9内に延出された支持アーム19は、前記ハウジング本体9の内面に開閉自在に枢着されているとともに、前記支持アーム19には、当該支持アーム19が前記装着口11の周縁に衝突する前に前記ハウジング本体9の内

## 実開 平4-46070(2)

面に接当して支持アーム19のそれ以上の開き方向への揺動を阻止するストッパー24が設けられている塗膜転写具。

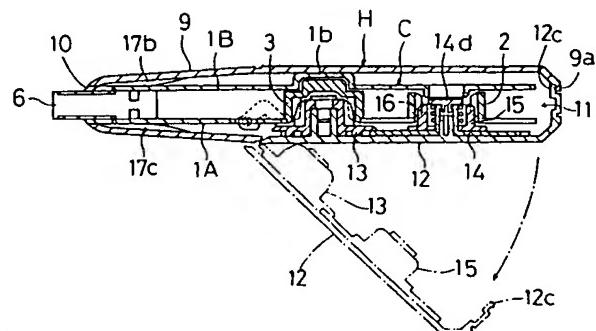
## 図面の簡単な説明

第1図乃至第11図は本考案に係る塗膜転写具の実施例を示し、第1図は全体の縦断面図、第2図は全体の水平断面図、第3図は要部の拡大縦断面図、第4図は要部の分解斜視図、第5図は転写状態を示す要部の拡大面図、第6図はハウジング全体の縦断面図、第7図はハウジングの要部の分解図、第8図はカートリッジ全体の水平断面

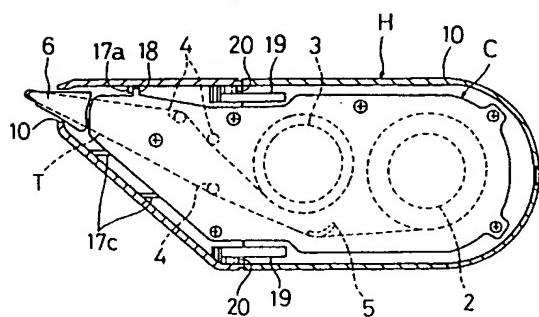
図、第9図乃至第11図は夫々開閉蓋のヒンジ構造を示す要部の拡大断面図である。また、第12図及び第13図は従来構造を示す分解斜視図と使用時の全体側面図である。

H……ハウジング、C……カートリッジ、a……被転写面、T……転写テープ、T<sub>2</sub>……転写塗膜、2……繰出コア、3……巻取コア、6……転写ヘッド、7、8……軸挿入口、9……ハウジング本体、10……開口、11……装着口、12……開閉蓋、13、14……駆動軸、24……ストッパー。

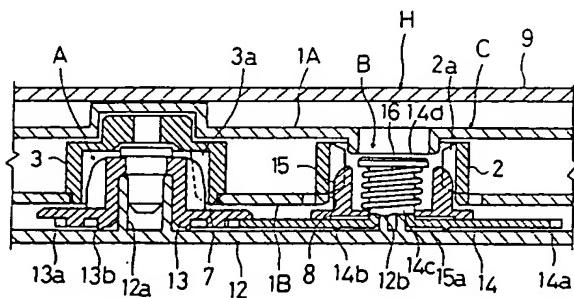
第1図



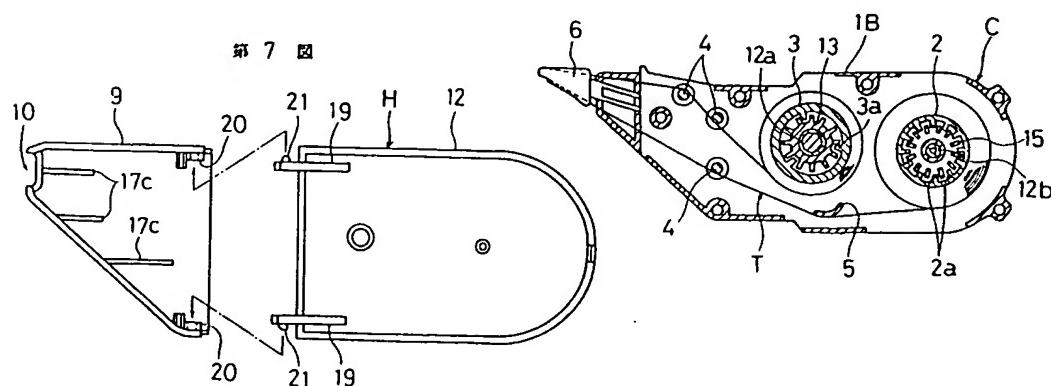
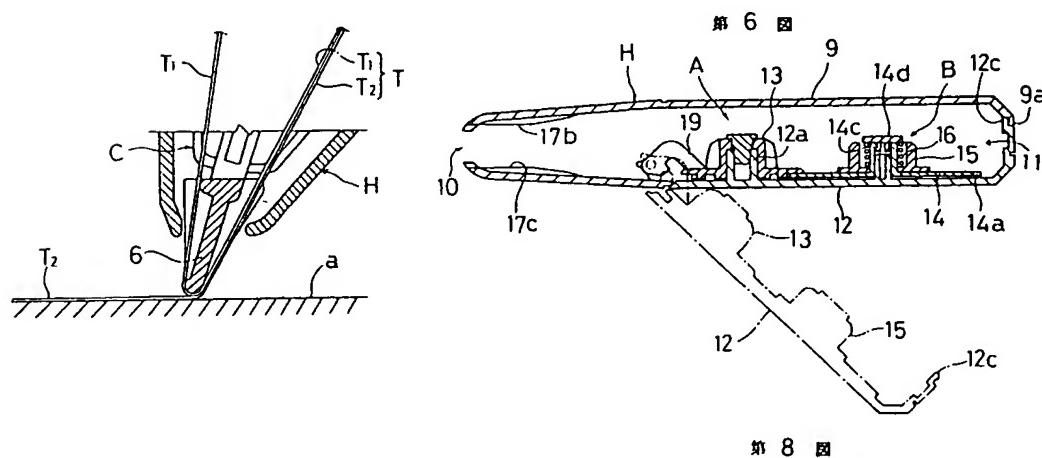
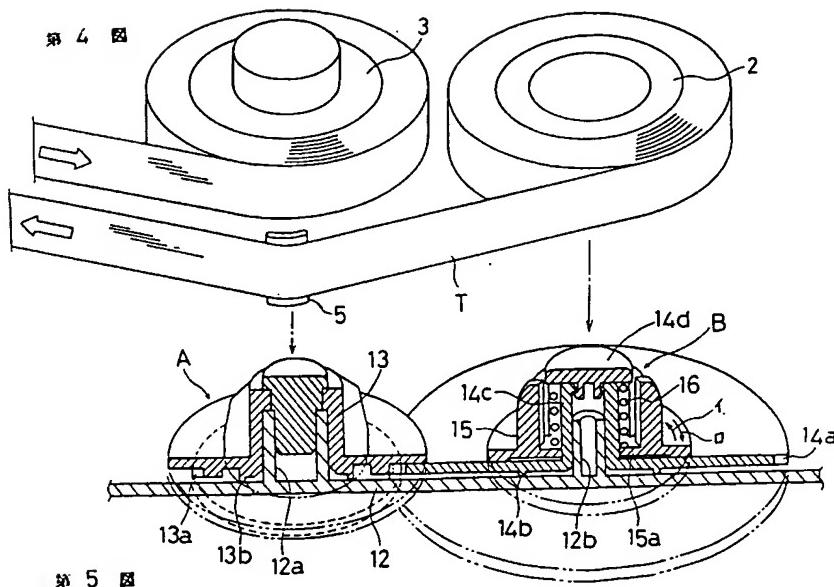
第2図



第3図



実開 平4-46070(3)



実開 平4-46070(4)

